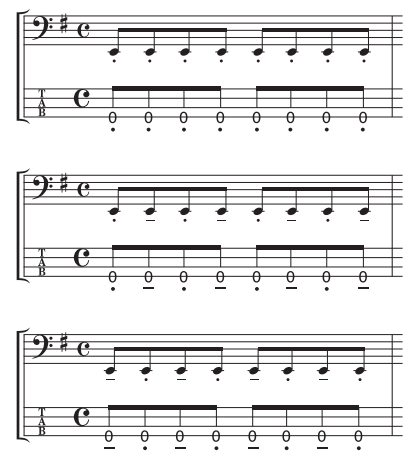


注意点1  **理論**

**常にノリに合った
弾き方を選ぶべし!**

ベーシストは、曲に合うグルーヴを瞬時に判断し、その都度ピッキング・スタイルを変えながら演奏しなくてはならない。例えば、ミドル・テンポの8ビートをワイルドに聴かせるのであれば、通常のピッキングで勢い良く弾けばよい。しかし、このメイン・フレーズのようにタイトなサウンドが要求される場合は、スタッカートを使って歯切れ良く演奏する必要があるのだ。“前ノリ”“後ノリ”【註】“ハネ気味”……など、リズムにはさまざまな解釈があるが、それらは1音1音をどのように弾くのかによって決定される(図1)。ベーシストの桃源郷である“グルーヴ・ワールド”へ辿り着くためにも、音符が自由自在に操れるように、日々鍛錬しよう。

図1 ノリの違い



スタッカートでは
タイトに聴こえる

後ノりに聴こえる

前ノりに聴こえる

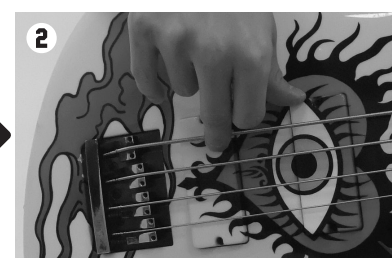
注意点2  **右手**

**右手の素早いミュートが
歯切れの良い音を生み出す!**

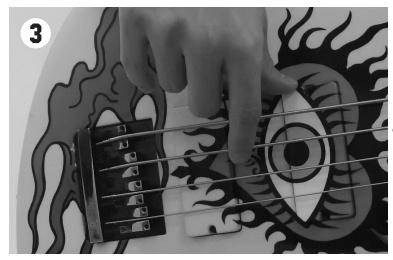
通常ミュートは左手と右手の両方を使うが、ここでは、右手のみでミュートするスタッカート・ピッキングを練習しよう。基本的にピッキングは、人差指と中指を交互に動かすオルタネイトになるが、人差指でピッキングしたあとには次の中指で、中指でピッキングしたあとには次の人差指で、音をすぐに止めよう(写真①~④)。この動作を正確にくり返すことによって、スタッカートの利いた歯切れの良いサウンドが生み出せる。“音を出す→止める→出す”という流れを右指に叩き込むことが大切だが、通常のピッキングとスタッカート・ピッキングを交互に弾く練習をくり返し行なってみると、より実践度がアップするだろう。



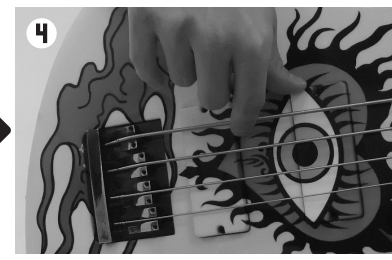
① 人差指でのピッキング。中指も準備しておこう。



② 中指でミュート。弦の振動をしっかり抑えるべし!



③ 中指でのピッキング後、人差指の準備を忘れずに。



④ 人差指で消音。これらの動作を正確にくり返そう!

~コラム3~

将軍の戯れ言

指弾きは、ピック弾きに比べて、スラップやタッピングへの切り替えがやすく、また右手でのミュートも行ないやすいため、16ビート系フレーズに対応しやすい。さらに、複数の指を使ったり、レイキングも活用できるので、激しく弦移動するフレーズも演奏しやすいのだ。ただ、ピック弾きよりもアタック感やサステイン感が弱くなりがちで、またピックのオルタネイトのように音粒を揃えながら速く弾くことが難しいという側面もある。このように指弾きにはデメリットもあるわけだが、努力次第で、いくらかでも解消できるのだ。日々自分を厳しくいじめ抜いて、指弾きの弱点を克服せよ!

**弱点を知っているからこそ上達できる!
指弾きのメリットとデメリット**



⑤ 右手を鍛え上げれば、指弾きでもピック弾きに負けな
いパワーとスピードが出せる。日々精進だ!

【“前ノリ”“後ノリ”】ジャストのタイミングに対して、やや前気味に発音することを“前ノリ”、やや後ろ気味に発音することを“後ノリ”と言う。極端に発音場所をズラすと間違っているように聴こえるので注意すること!